

有限会社北海化成工業所

「大手にできない
商品づくりこそが当社の仕事」
自ら意欲を持って試行錯誤を行う
伊吹社長のものづくり

住 所	〒003-0029 札幌市白石区平和通11丁目北8-14		
代表者	伊吹 敦	創 業	昭和 45 年 10 月
従業員	10 名	資本金	1000 万円
業 務	プラスチックの粉碎・リサイクル、プラスチック製品の成形加工製造		



■動機

北海化成工業所は、プラスチック製品の成形加工及び販売を行う会社で、プレス成形、射出成形、真空成形、押出成形、ブロー成形など様々な成形機を有している。同社は、北海道内で使用されるカニかごの部品などの漁業用の資材の製造も行っており、水産試験場から受注した多様な試験用特注製品の製造も請け負ってきた。伊吹社長は自社の技術を活かして、他社にできない仕事を行うことを特色とする方針で、3Dプリント、NC加工、超音波溶着、FRP造形などを含む新たな技術の導入と活用にも強い興味を持っていた。

■出会い

2021年12月、水産資材を扱う(株)マツイを通じて、水産試験場の川崎氏が開発を始めていた養殖カキに任意の文様を付与できる付着器の技術について紹介を受けた。水産試験場から提示されたカキの付着器の見本は、3Dプリン

ト技術を利用して試作されたものであり、大手メーカーが敬遠する少量多品種の製造が必要な製品であった。だからこそ北海化成工業所がやるべき仕事だと、伊吹社長は「まずはやってみよう」と試作に取り組んだ。

■付着器の試作

水産試験場から提示された養殖カキ用の付着器は、表面に凹凸の刻印で文様が描かれた円盤という単純な製品であり、プレス機で試作したところ、製品自体の製造はそれほど難しいものではなかった。しかし、問題は顧客のニーズに合わせた文様の刻印を多品種で製造する必要があるという点であった。このような課題にこそ熱意を持ってチャレンジすべきと考え、自社でプレス成形用の型を製造する技術の検討を進めた。気が付けば2年が経過していたが、ついに自社でプレス成形用の型を製造できる技術が構築でき、多様な文様の刻印された付着器の製

造がプレス成形で可能になった。そこからさらに、量産に向けた連続製造工程の構築などを経て、多品種の受注に耐えられる一貫した製造の体制を構築した。

■商品化から販売へ

養殖カキに任意の文様を付与できる付着器として道総研が特許出願を行ったタイミングで本知財の実施契約を締結した。販売窓口として(株)マツイと連携し、「Oyster Marker オイスターマーカー」の名称で商品化を行い、漁業関係者からの要望に基づきサンプル提供を行った結果、2024年に熊本県荒尾市からの初の受注に結びついた。2025年以降も、全国の展示会などにも出展し、さらに知名度を高めていく予定である。

北海化成工業所では、これまで様々な製品で道総研と連携しており、今後も技術・設備面でのサポートはもちろん、研究開発の良きパートナーとして共に歩んでいきたいと考えている。

■基本情報

発明の名称	付着器、及び水産動物の養殖方法		
出願人	道総研、北海道電力(株)		
特許出願番号	特願2022-054879		
出願日	令和4年3月30日	登録日	
実施許諾実績	■有り □無し	発明場	水産研究本部 栽培水産試験場